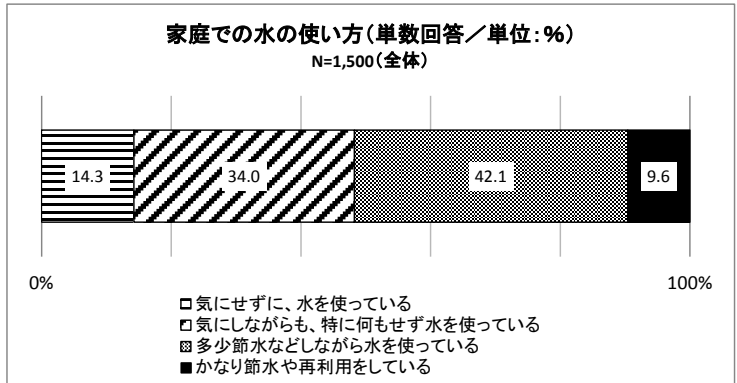


Q.水の使い方は？（4択）

◇“節水している人”は半数程度にまで減少

日常生活における節水への意識に、変化は見られたのでしょうか？
 「家庭での水の使い方」について聞いたところ、「かなり節水や再利用をしている」と回答した人は9.6%と昨年から1.6ポイント減少し、10%を割り込みました。また、「多少節水や再利用をしている」人も昨年から6.3ポイント減の42.1%となり、これらを合計した“節水している人”は51.7%（昨年比7.9ポイント減）にまで落ち込みました。

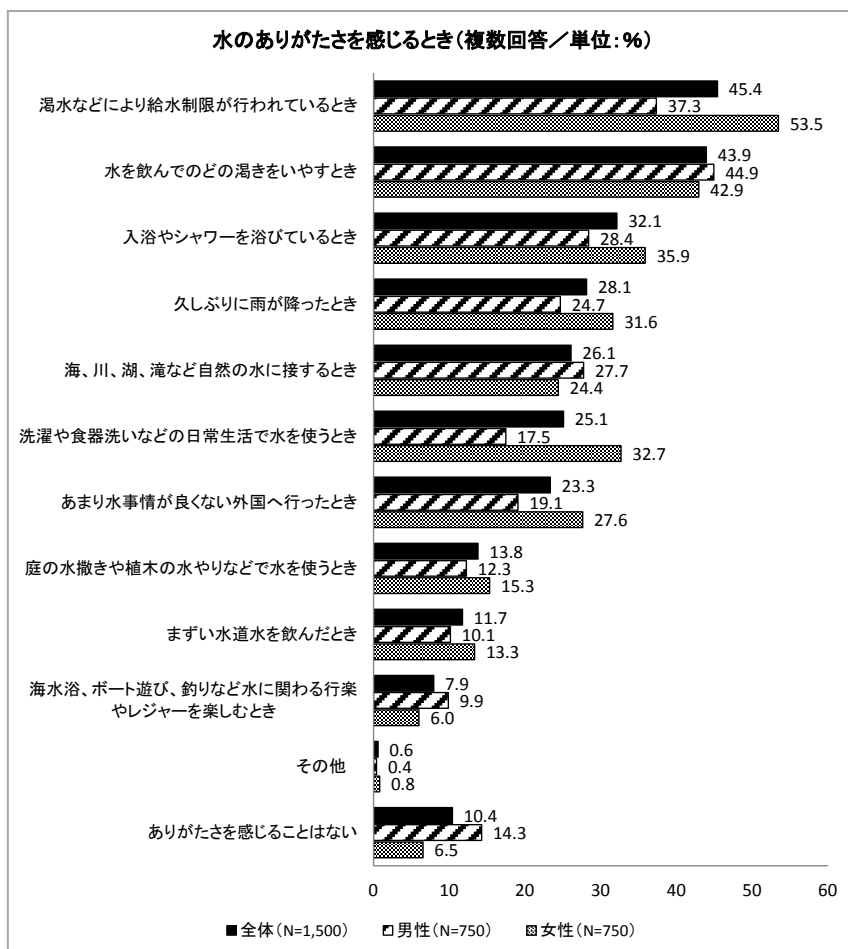


Q.水のありがたさを感じるときは？（10択+その他+感じることはない）

◇トップ3は「給水制限のとき」「のどの渇きをいやすとき」「入浴やシャワーのとき」

「水のありがたさを感じるとき」を聞いたところ、1位「給水制限が行われているとき」(45.4%)、2位「のどの渇きをいやすとき」(43.9%)、3位「入浴やシャワーを浴びているとき」(32.1%)となり、トップ3は昨年と変わりませんでした。

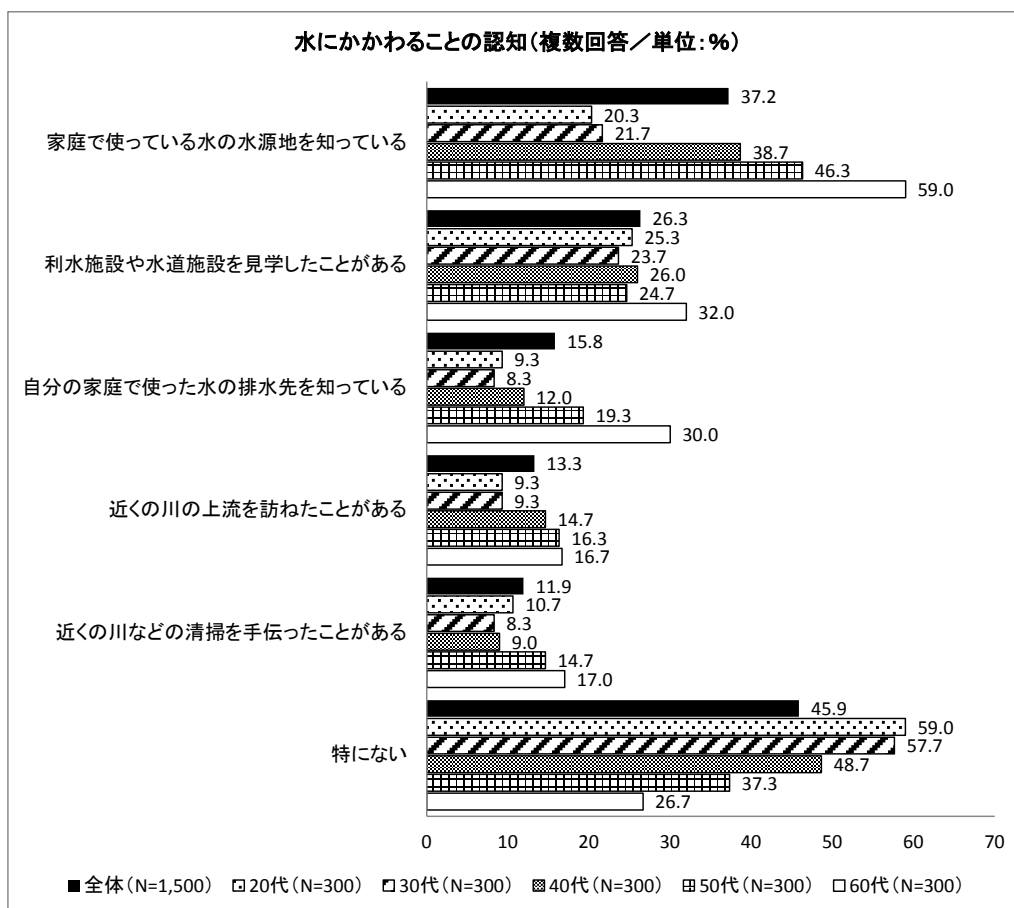
男女別では、「給水制限が行われているとき」(男性2位:37.3%、女性1位:53.5%)、「のどの渇きをいやすとき」(男性1位:44.9%、女性2位:42.9%)、「入浴やシャワーを浴びているとき」(男性3位:28.4%、女性3位:35.9%)と、トップ3の項目は全体と同じでしたが、「洗濯や食器洗いなど日常生活で水を使うとき」は、女性の3人に1人(32.7%)が回答したのに対し、男性はそのほぼ半数の17.5%、「ありがたさを感じることはない」は、男性が14.3%だったのに対し、女性は6.5%と倍以上の差がつくなどの違いがみられました。



Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？（5択＋特にない）

◇水にかかわる経験・認知率の低下が進む

水にかかわる事例を5つあげて経験・認知を聞いたところ、これまで1位を保持していた「使っている水の水源地を知っている」が、昨年より3.6ポイント減（昨年40.8%→今回37.2%）で2位に下がりました。代わりに1位となったのは「特にない」で、こちらは昨年から6.4ポイント上昇（昨年39.5%→今回45.9%）しました。年代別では、「特にない」が20代（59.0%）、30代（57.7%）、40代（48.7%）、50代（37.3%）、60代（26.7%）と、年代が低いほど水にかかわる経験・認知率が上がり、「水源地を知っている」は60代（59.0%）、50代（46.3%）、40代（38.7%）、30代（21.7%）、20代（20.3%）と、年代が高いほど数値が上がるという、例年と同様の傾向でした。



参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、「使いながら守る水循環」を学ぶ市民参加型ワークショップ「里川文化塾」の実施など、様々な活動を行っています。「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。